



といでの

校訓 「自立・創造・敬愛」



高岡市立戸出東部小学校
令和7年12月1日発行

人権週間に寄せて — 緑がもえる戸出野に 明るい声をひびかせよ —

生徒指導主事

12月4日からの人権週間に合わせて、本校では「友達のよさに気付き、認める力」「場に応じた挨拶や言葉遣い」「周囲とよりよく関わる力」に重点をおき、学級・学年や児童会での活動に取り組みます。子供たちの様子を見ていると、日々の生活の中で、思いやりのある言葉遣いをする姿や、元気に挨拶をする姿が増えてきています。このような姿は、子供たち一人ひとりに育ってほしい“人権感覚”が行動に表れている、すてきな変化です。

先月行われた創校60周年記念式典では、地域や保護者の皆様から、次のような温かいメッセージをいただきました。

「戸出東部小学校の卒業生です。またここで子供たちの成長を見られてうれしいです。立山の～♪の歌詞が懐かしいです。」

「登校時、いつも踏切で挨拶をしています。子供たちから挨拶を返してもらい、清々しい気持ちになります。がんばってね。ありがとう。」

「これからも、元気でたくましく、友達を大切にして、すばらしい大人になってください。」

これらのメッセージを見て、子供たちは「地域の方から見守られているんだな」という安心感を抱くことができたと思います。また、私自身、学校と地域が一体となって東部っ子の成長を支えていくという思いがついたメッセージだと感じました。

子供たちには「自分も大切、相手も大切」という考えを、日々の生活の中で身に付けてほしいと願っています。そのためには、学校や家庭での声かけ、地域での温かい見守りが欠かせません。気持ちのよい挨拶を毎日心がけることで、相手を尊重する心や、自分を表現する力が育ちます。

人権週間にきっかけに、地域の方々が見守ってくださるこの戸出地区に、さらに明るくさわやかな挨拶を響かせていきたいと思います。

「やさしさいっぱい！スマイル作戦」

第4学年

4年生は、総合的な学習の時間の活動で幼児との交流活動を行っています。この交流活動の目的・ねらいは、小学校と保育園が連携し、異年齢の子供たちとの関わりを通じて社会性やコミュニケーション能力を育むことです。

まず1学期に、「幼児」という言葉のイメージマップを作り、次に、幼児との接し方や幼児が幼稚園・保育園でどんなことをしているのかなど、幼児理解のための調べ学習をしました。2学期になり、10月、といでこども園を訪問し、年長児と交流を行いました。一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりダンスをしたりしました。交流後の振り返りでは「幼児が楽しそうだった」「たくさん友達になれた」と多くの子供たちが満足感をもつことができました。

さらに、「ほかの園と交流してもっと多くの幼児も楽しませたい」「次はこども園のみんなに学校に来てもらい、もっと仲を深めたい」といった意見が出ました。そこで、2回目の交流では、といでこども園・市野瀬保育園の年長児を学校に招待することにしました。より仲を深めるために4年生が考えたことは、「おばけ迷路」「的当て」「ボーリング」「バスケット」「輪投げ」「宝探し」「手作りおもちゃ」の7つのお店で園児を楽しませることでした。どうしたら園児がスマイルになるか、ゲームで困ることはないか、と子供たちは様々なことを考え準備を進めました。

活動後、「優しく声をかけたら笑顔で答えて

くれてうれしかった」「終わりの会で『樂し

かったですか？』と聞いたら『樂しかったです！』

と返してくれて僕もスマイルになりました」と笑顔で感想を語ってくれました。

